

日本の機窓から(1), 北アルプスと白山

〈須藤 茂¹⁾〉

日本は山国ですから、旅客定期便からは多くの山が見えます。地質に関わる色などの情報は、秋によく見えますが、雪が積もると微細な地形が強調されるようです。窓の外を見ても見なくても、写真を撮っても撮らなくても運賃は同じです。写真の説明の後のカッコ内に、路線名と撮影月を付けました。



写真1 南方から見た北アルプス。(羽田-長崎, 11月)

密集していて山座同定が難しいですが、中央手前の乗鞍岳以北の北アルプス全体が見えています。



図1 北アルプスの位置図。



写真2 西方から見た鷲羽岳(2,924m)。(名古屋-札幌, 1月)

写真中央に鷲羽池火山の直径250-300mの火口が見えます。左下は厚い祖父岳の溶岩からなる平坦な地形、右上は硫黄岳で、変質帯が広がっています。



写真3 東方から見た檜ヶ岳(中央, 3,180m). (名古屋-花巻, 10月)
檜のように突き出て見えるはずの檜ヶ岳ですが, 上から見下ろしてしまうとちょっと, 地質は表紙の穂高岳と同様で, 檜ヶ岳自身と西鎌尾根(上), 北鎌尾根(右), 東鎌尾根(右下)などは火山活動に関連した角礫岩などでできています.



写真4 東方から見た笠ヶ岳(中央左, 2,897.5m)と抜戸岳(中央右, 2,812.8m). (名古屋-花巻, 10月)
6千5百万-5千万年前の大規模な火山活動でできた笠ヶ岳流紋岩からなり, 溶岩や溶結凝灰岩の水平な互層の様子がかすかに見えます.



写真5 東方から見た焼岳(中央左, 2,455.4m). (名古屋-花巻, 10月)

1915年の噴火では, 発生した泥流により, 梓川(写真手前下)がせき止められ大正池ができました. 自然現象です. その後, 大正池が周囲から流れ込む土砂で埋められてしまいそうになると, 埋まらないように人間が自然を変えています.



写真6 南方から見た剣岳(2,998 m, 中央右, 奥)と, その手前の立山(3,015m). (羽田-小松, 12月)
雪と岩の殿堂は, 中生代ジュラ紀の硬い閃緑岩などで, 立山は同じく花崗岩などでできています.

写真7 西方から見た鹿島槍ヶ岳. (名古屋-札幌, 1月)

中央が布引山で, その左が鹿島槍ヶ岳の南峰(2,899.1m)です. 新第三紀鮮新世の終わりごろという新しい時代にできた黒部川花崗岩からなります. 写真手前下が黒部峡谷です.





写真8 西方から見た針ノ木岳(中央手前, 2,820.6m). (名古屋-札幌, 1月)
中央奥の蓮華岳(2,798.6m)との間にあるのが針ノ木峠で, この付近は, 黒部川花崗岩より少し古い溶岩や凝灰岩からなります.

写真9 東方から見た常念岳(中央右, 2,857m)と, その左の蝶ヶ岳(2,677m). (伊丹-松本, 2月)

常念岳は6千万年前ごろの花崗岩であるのに対し, 蝶ヶ岳はそれより古く複雑な歴史を持つらしい中生代の堆積岩で, 両者の地質は全く違います. 間を流れてくる烏川の扇状地が安曇野の一部を作ります.



写真10 南方から見た白山. (成田-仁川, 12月)

白山は火山ですが, 山の大部分は恐竜化石で有名になった中生代の手取層群などからなり, 御前峰(中央上, 2,702.2m)などのなだらかな地形を示す火山体はその上に載っているだけである様子がよく見えます.